

株主の皆様へ



代表取締役社長

黒田 浩史

■ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第67期中間期（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

■当第2四半期連結累計期間の概況

当社グループの当該期間における受注は、前年度第4四半期に急伸した勢いからはやや落ち着いたものの、前年同期を大幅に上回る水準となりました。売上も大幅に増加しました。

当社グループの当該期間の業績は、受注高は6,979百万円（前年同期比4,141百万円、145.9%増）、売上高は5,352百万円（前年同期比2,640百万円、97.3%増）となりました。また、利益面につきましても経常利益345百万円（前年同期は経常損失1,224百万円）、四半期純利益279百万円

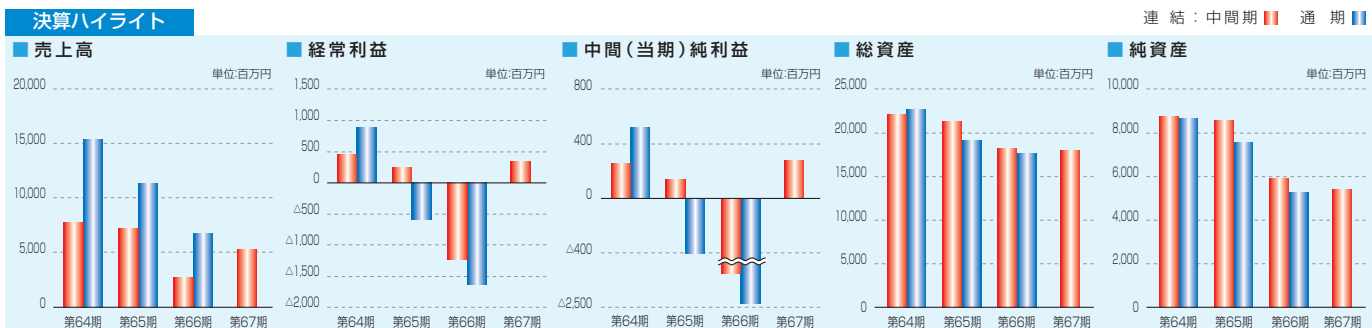
（前年同期は四半期純損失1,712百万円）という結果となりました。7四半期ぶりに黒字回復を果たし、当初の業績予想を上回ることができました。

当該期間中に、中期経営計画に基づき構造改革のための施策をいくつか実行しました。主なものを挙げると、5事業部の3事業部への統合再編とそれに伴う機器事業の合理化、営業拠点の統廃合、海外展開加速のための韓国現地法人の設立、新商品の導入です。当社グループは今後も構造改革を着実に推進し、企業体質の強化に努める所存です。

■通期の見通し

当社グループは現在の豊富な受注残の消化に向けて引き続き売上の増加に努めており、第3四半期連結累計期間以降は受注に多少の調整局面があるものの、売上は増加するものと予想しております。今後は円高基調の持続、原材料コスト・人件費の上昇など厳しい要因はあるものの、第2四半期連結累計期間において業績が当初予想を上回ったこともあり、通期の連結業績につきましては期初予想を上方修正し、売上高11,200百万円、経常利益640百万円、当期純利益510百万円と予想しております。

また、当期の期末配当につきましては、平成22年8月12日公表時点では未定としておりましたが、通期の業績予想を上方修正したことにより、1株につき3円の配当を予定させて頂くこととしました。通期目標の必達に全社一丸となって傾注努力いたしますので、株主の皆様には何卒ご支援のほどよろしくお願いいたします。



■ 駆動システム

受注環境は、前年度第4四半期以降、LED、電子、医療・分析、ロボットなど当社主要ユーザーが急激な立ち上がりを示し、当該期間についても好調に推移しました。しかし、各ユーザーでは品薄状態への対応から6、7月にかけて前倒し発注が行われたため、当社受注としては8、9月には一服状態となりました。一方売上については、生産能力の拡充途上であり、十分な結果には結びつかず、受注残が増大しました。

当セグメントの受注高は3,292百万円、売上高は2,444百万円、営業利益は303百万円の結果となりました。

売上高 **2,444** 百万円



ボールねじアクチュエータSCシリーズ

ボールねじアクチュエータSEシリーズのフルカバー版として、省スペース、強靱なガイド部剛性を維持し、さらに防塵性能を向上させました。外部からの異物混入によるトラブル防止に最適です。

■ 金型システム

モーターコア金型はこの1年半、多分野の顧客層で好況を維持しています。各産業分野での操業率の向上を反映した更新型の引合いも根強くあり、エネルギー効率の向上を主目的とする新型も時代の流れを反映して増加しました。この間に受注残も漸増し、納期は長くなる傾向にありますが、製造面での構造改革を進め影響を最小限に抑えました。車載の駆動用モーターコアについては、搭載車種の生産台数を反映して当該期間の売上は伸びませんでした。新たに当社コアが搭載された車種が増加しました。携帯電話用振動モーターコアに関しては、季節変動の山に当たる時期でもあり好調に推移しました。

当セグメントの受注高は1,678百万円、売上高は1,354百万円、営業利益は31百万円の結果となりました。

売上高 **1,354** 百万円

ハイブリッド車モーターコア

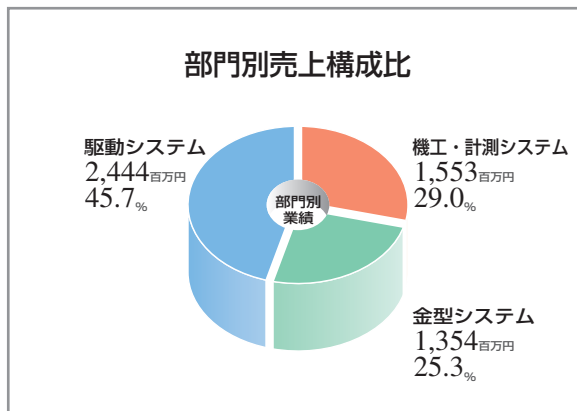
車載駆動モーターコアが本田技研工業株式会社殿の「シビック・ハイブリッド」「インサイト」に続いて「CR-Z」と「フィット・ハイブリッド」用の駆動モーターコアに採用されました。

「CR-Z」
2010-2011日本カーオブザイヤーを受賞



「フィットハイブリッド」
2010-2011日本自動車殿堂カーオブザイヤーを受賞

部門別売上構成比



(注) 第1四半期連結会計期間より報告セグメントを従来の精密機器部門、システム機器部門の2部門から、駆動システム、金型システム、機工・計測システムの3部門に変更いたしました。

■ 機工・計測システム

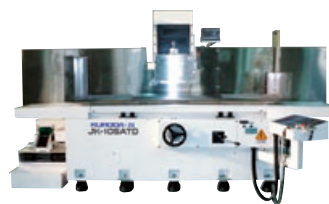
本年7月に、事業面でのシナジー効果の追求、技術基盤の強化、業務運営の効率化などを狙いとし、従来の機器・工作機械・精機システムの3事業部と、健康医療機器グループを統合し、新たに「機工・計測システム事業部」として発足させました。本事業部は、「加工から計測まで」を合言葉に、お客様に精密分野での総合的ソリューションをご提案して参ります。

当セグメントの受注高は2,008百万円、売上高は1,553百万円、営業損失は74百万円の結果となりました。

売上高 **1,553** 百万円

大型平面研削盤 JK-ATDシリーズ

平面研削機能を最小限に絞り込むと同時に海外生産によりコストの大幅な削減をおこないました。「当社最大級」「エコノミー版」として位置づけられており、大型平面研削盤の経済性を求めのお客様に最適です。



MARIO PINTO社製 ライブツーリング



旋盤や複合加工機用回転工具として欧州市場で日本製工作機械にも多く採用されているMARIO PINTO社(伊)製ライブツーリングを弊社が日本で独占販売を開始します。一体構造で安定した加工品質を提供いたします。

ナノメトロ450TT

半導体材料である次世代大口径φ450mmシリコンウェーハの平坦度検査装置を世界に先駆けて「ナノメトロ450TT」として市場に投入いたしました。平坦度やそり形状測定の評価・解析など幅広いニーズに対応しております。



トピックス

■ 韓国黒田精工の設立

平成22年4月に韓国の安養市に現地法人「韓国黒田精工株式会社」を設立し、6月1日より営業を開始いたしました。



四半期連結財務諸表

■ 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期末 平成22年9月30日現在	前 期 末 平成22年3月31日現在
(資産の部)		
流 動 資 産	8,135	7,448
固 定 資 産	9,925	10,267
有 形 固 定 資 産	7,938	8,216
無 形 固 定 資 産	122	127
投 資 そ の 他 の 資 産	1,864	1,923
資 産 合 計	18,060	17,716
(負債の部)		
流 動 負 債	6,146	5,405
固 定 負 債	6,485	7,050
負 債 合 計	12,632	12,455
(純資産の部)		
株 主 資 本	3,861	3,580
資 本 金	1,875	1,875
資 本 剰 余 金	1,451	1,451
利 益 剰 余 金	541	261
自 己 株 式	△6	△6
評 価 ・ 換 算 差 額 等	1,413	1,532
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	161	264
土 地 再 評 価 差 額 金	1,335	1,335
為 替 換 算 調 整 勘 定	△82	△67
少 数 株 主 持 分	153	146
純 資 産 合 計	5,428	5,260
負 債 ・ 純 資 産 合 計	18,060	17,716

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日	前第2四半期累計期間 平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
売 上 高	5,352	2,712
売 上 原 価	4,088	2,867
売 上 総 利 益	1,263	△155
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,005	982
営 業 利 益	258	△1,137
営 業 外 収 益	226	150
営 業 外 費 用	139	236
経 常 利 益	345	△1,224
特 別 利 益	8	—
特 別 損 失	25	189
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	328	△1,413
法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税	17	19
法 人 税 等 調 整 額	25	283
少 数 株 主 利 益	6	△2
四 半 期 純 利 益	279	△1,712

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日	前第2四半期累計期間 平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
営 業 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	472	△733
投 資 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△44	△95
財 務 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△867	1,514
現 金 及 び 現 金 同 等 物 に 係 る 換 算 差 額	△11	23
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 増 減 額	△451	708
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 首 残 高	3,667	3,312
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 四 半 期 末 残 高	3,216	4,021

(注) 記載金額は、百万円未満を切捨てて表示しております。

■会社の概要

商号	黒田精工株式会社
本店	神奈川県川崎市幸区下平間239番地
創業	1925年(大正14年)
資本金	18億75百万円
従業員数	452名

■連結対象会社の状況

連結子会社	持分法適用関連会社
クロダイインターナショナル株式会社	株式会社ゲーシング
クロダプレジジョンインダストリーズ(M) (マレーシア)	日本金型産業株式会社
平湖黒田精工有限公司(中国)	クロダニューマティクス株式会社
永昇電子株式会社	株式会社TKG
韓国黒田精工株式会社	

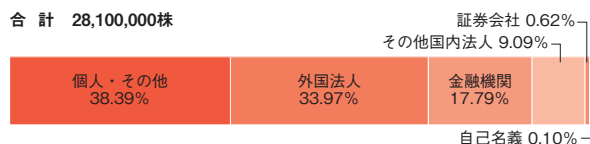
■当社グループの主要な事業

セグメント	主要製品
駆動システム	精密研削ボールねじ、転造ボールねじ、ボールねじアクチュエータ、XYステージ
金型システム	積層精密プレス型、モータコア型、精密金属プレス製品
機工・計測システム	ツーリング、保持工具、ゲージ、平面研削盤、超精密鏡面研磨装置、超精密表面形状測定装置、電子機器、医療機器、コンプレッサ

■株式の状況

発行可能株式総数	74,800,000株
発行済株式の総数	28,100,000株
株主数	2,809名

■所有者別株式分布状況



■大株主

株主名	株式数(千株)	持株比率(%)
バーカー ハネフィン ユーケー	9,400	33.48
株式会社みずほ銀行	1,381	4.92
黒田 浩史	1,169	4.16
中央三井信託銀行株式会社	770	2.74
黒田精工取引先持株会	765	2.72
株式会社横浜銀行	748	2.66
株式会社損害保険ジャパン	660	2.35
朝日生命保険相互会社	500	1.78
日本生命保険相互会社	443	1.57
株式会社ユウシュウ建物	412	1.46

*持株比率は自己株式(29,872株)を控除して計算しております。

■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	毎年3月31日
定時株主総会・期末配当	
公告方法	電子公告により、当社のホームページに掲載します。 http://www.kuroda-precision.co.jp/ ただし、やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

■株式に関するお手続きについて

○証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
郵送物等の発送と返戻に関するご照会	株主名簿管理人 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
支払期間経過後の配当金に関するご照会	
株式事務に関する一般的なお問合せ	
上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

○特別口座に記録された株主様の株式に関する各種お手続きに関しましては、中央三井信託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、下記へお問合せください。

お問合せ先 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

[手続き書類のご請求方法]

- ・音声自動応答電話によるご請求 0120-87-2031 (フリーダイヤル)
- ・インターネットによるダウンロード http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html

黒田精工株式会社

本社 / 〒212-8560 神奈川県川崎市幸区下平間239番地
TEL / 044-555-3800 (代表) FAX / 044-555-3524
<http://www.kuroda-precision.co.jp/>

